

# ココシリ

「ここが知りたい」  
国際協力に関係する  
いろんなトピックを  
分かりやすく解説します！

国連地域開発センター (UNCRD) ワークショップ

## 東日本大震災 —経験と教訓の共有 被災地の持続可能な 復興を考える



ワークショップに参加した専門家グループは、東日本大震災後の復興に取り組む岩手県、宮城県、福島県の被災地を視察。各地でワークショップを行った

### ■持続可能な地域の復興に向けた提言(要約)

- 1 産業振興**  
 沿岸部の漁業・水産加工業の復興。新たな産業として、健康補助食品・製菓・地元の葉草栽培などを使用した化粧品・新しい海産物・加工品を視野に、環境に優しい産業の振興として、グリーンな技術開発・再生可能なエネルギー開発・自動車やその他生産品の新たなデザインなど。リサイクルをベースにした産業として、コンポスト・紙の再生・プラスチックの再生・ガラス瓶の再利用・雨水利用・産業の共生のための機会とサプライチェーンなどの立地を考慮。
- 2 エコシステム再生**  
 沿岸部の自然の回復能力をサポートするために、沿岸部の瓦礫を撤去。沿岸部の植物育成、塩害に強い植物の育成と塩化土壌のモニタリング、生物多様性の回復、産業・生計とまちづくりのバランスのとれたアプローチの実施。
- 3 NGO/NPOとの連携**  
 国とNGO/NPOが地域での調整を行うことで、全体の復興計画と実施戦略の後押しにつなげる。重要なのは、このような調整にコミュニティのすべての代表が入っていること。商店主や漁業者、農業者、NGO/NPOといった同アクター間の調整だけでなく、グループ間のつながりを作るべき。
- 4 プライベートセクターとの連携**  
 プライベートセクターが災害前に政府などと覚書を交わすことで防災計画に基づく協働が促進される。また、財政的負担を軽減することで災害時の対応や復興の役割を担う企業が出てくることも期待される。今回のような大災害では、コミュニティにあるすべての資源を投入することが必要。プライベートセクターの持つ可能性を過小評価すべきではない。

**国** 連地域開発センター(UNCRD)は、2月下旬から3月上旬にかけて、国内外から招いたコミュニティベイスのビジネス、グリーンビジネス、NPO/NGO連携などの専門家から構成されるチームを東日本大震災で被災した岩手県(陸前高田市/釜石市/大船渡市)、宮城県(南三陸町/石巻市)、福島県(いわき市)に派遣。復興に向けた取り組みを視察するとともに、地域の代表者らとワークショップ「持続可能な地域の復興」地域に根付いた産業の促進」を開催した。

UNCRDは防災を持続可能な地域開発における中心的課題の一つと位置付け、1995年に発生した阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、「コミュニティ防災、地震に負けない学校計画住宅計

画」といったプロジェクトを実施してきた。今回の視察およびワークショップの目的は、地域に根付いた環境に優しい産業を支援する実践的なアイデアや復興におけるNGOやNPOの役割などについて意見を交換し、その成果を共有していくこと。各被災地でワークショップに参加した専門家からは「応急復旧による雇用確保、本格的な操業回復、新しい価値創造に向けての企画立案が住環境の再建と同時進行で行われなければならない」、「商業や経済の復興に焦点が当てられてきたが、今後は高齢者や若者など特定のニーズへの対応を考

えるべき。そうした意味では、官と民の協力が重要になる」、「復旧・復興にはスピード感が必要。一方で、大変困難な長い道であり、マラソンの記録を争う」という話ではない。まずはしっかりと協力の土台、信頼を築いていくことが重要といった考えが示された。また津波による農地の塩害などによる汚染について、「農地の表土などをどのように除塩し復旧させていくかが重要。この分野ではさまざまな方法論、手段を経験してきたため、何か手伝えるのであれば支援したい」、「これから東北がクオリティの高い生活を取り戻し、経済を立て直すことができるのか。その鍵となるのが再生可能エネルギーで都市を再生する、グリーンエコマニーで都市を再生するなど、持続可能な都市の成長という考え方だ」といった意見が示された。

こうした国内外の専門家らとの意見交換を踏まえ、陸前高田市商工会事務局長の中井力氏は「こうした話を参考

## 2

011年、日本の政府開発援助(ODA)はどのような支援をどのくらいの規模で実施してきたのか。そのすべてが分かりやすくまとめられた「2011年版ODA白書 日本の国際協力」がこの3月、外務省から刊行された。

今回の特徴は、第I部で東日本大震災についてクローズアップしている点。被災直後から多数の国が支援の手を差し伸べてくれたこと、その背景にはこれまでの国際協力を通じて培われた日本への信頼と感謝があることなどを紹介。このような世界からの支援と励ましに因るためにも、日本は今後も国際社会の平和と安定に向けて積極的な役割を果たしていく必要があるなどの内容が盛り込まれている。

また第II部では、国際社会への影

### ODA白書

## 「政府開発援助(ODA)白書」刊行 2011年、日本が実施してきた 援助を見てみよう!

響力を強めている中国やブラジルなどの新興ドナーのほか、国内のNGOや民間企業、民間財団など開発の新たな担い手について取り上げている。そのほか、社会的弱者に配慮した公平な開発の実現に向けた取り組みやインフラ支援など今後のODAの在り方を考える上で重要な論点を紹介している。第III部・第IV部では、2011年のODA実績(図表・グラフ含む)のほか、各コラムでは援助現場でのエピソードが紹介されている。

また、青年海外協力隊が派遣先の住民の暮らしを撮影した写真が多く取り上げられており、援助の現場の切実さと温もりがじかに伝わってくる。従来に比べて写真や図版が大幅に増え、目で見ても楽しい白書になったほか、言葉使いも平易で読みやすいものとなっている。

## 3

3月30日で放送1000回目を迎えた「地球VOCE」週一回、日本のODAの現場や支援の第一線で活躍する日本人、東日本大震災後に世界から届けられた支援をテーマに、ヒューマンストーリーのタッチで紹介している5分間のミニ枠番組だ。昨年度に続き女優の藤原紀香さんとタレントのルー大柴さんがナビゲーターを務め、国内外での取材を通じて現地の様子を伝えてくれる。

最近放送されたのは、「笑顔を取り戻すスマイル作戦」(4月13日放送)。東京でクリニックを営む傍ら、ライフワークとして国際医療ボランティアに長年取り組んでいる形成外科医の与座聡さんを藤原さんが訪ね、内戦で大虐殺のあったルワンダでの活動をレポートしている。また、「難民キャンプにミルクを届けたい!」(4月20日

### ODAを知る

## 『地球VOCE』 国際協力の現場で活躍する 日本人を紹介

放送)では、牛井チエーン「すき家」を展開する株式会社ゼンショーが、大干ばつでケニアの難民キャンプに逃れている子どもたちに毎週牛乳を届ける様子を紹介。さらに、ザンビアで栽培されているバナナの茎の繊維を使って紙を作り、現金収入源として現地の人の生活を支えている取り組みに注目した「バナナを使って世界を救え!」(4月27日放送)などが放送されている。

また、今年度からは番組のフェイスブックを立ち上げ、番組制作の裏話や出演者の声、現地での秘蔵写真などのスペシャルコンテンツも公開する予定になっている。過去の放送番組はテレビ東京の番組ホームページ(www.tv-tokyo.co.jp/chikyuvo)でいつでも見ることができると、ぜひチェックしてみよう。



写真や図表がふんだんに使用された今回のODA白書。青年海外協力隊の撮影写真も掲載されている



セネガルの青年海外協力隊員が作成した地域と学校の紹介ビデオを見てよるこぶ子どもたち。学校に通っていない子どもたちが学校に興味を持つきっかけになっている(提供:廣部えりな)



『地球VOCE』は、テレビ東京(金曜21:54~22:00)とテレビ東京系列(土曜12:25~12:30)で毎週放送中

### ■最近の放送プログラム

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 第98回  | 京都の町屋から世界に笑顔を<br>放送日: 3月16日       |
| 第99回  | 関西の中小企業が世界のお手本!<br>放送日: 3月23日     |
| 第100回 | ラオス人によるラオス人のための法律作り<br>放送日: 3月30日 |
| 第101回 | 笑顔を取り戻すスマイル作戦<br>放送日: 4月13日       |
| 第102回 | 難民キャンプにミルクを届けたい!<br>放送日: 4月20日    |
| 第103回 | バナナを使って世界を救え!<br>放送日: 4月27日       |